

令和3年度 丹生高等学校 学校評価書

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
重点目標1 中高一貫教育	ふるさとの活力と発展に貢献できる資質や能力を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 学年縦断型の NYU 探究（地域探究）が2年目をむかえ、深まりが出てきた。</li> <li>● 地域探究にとどまらず、広い視野での探究活動（例えば国際的視野）へ昇華させる必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域の協力だけでなく、大学や外部機関との連携も進めていく。</li> </ul>
	越前町4中学校との連携を強め、中高一貫教育の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 高校2年生の4中学校への訪問やPR動画の作成。さらに町長プレゼンへの中3生参加などを通して連携を進めることができた。</li> <li>● 中学校での総合的な学習の時間と高校での探究活動とのつながりを持たせられると良い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● サマースクールより、NYU 探究（地域探究）を開始し、高校での探究活動へつなげる。</li> </ul>
重点目標2 教育課程・学習指導	わかる授業を通して、基礎学力の定着を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ICTを活用した授業に対する評価が上がっており、授業の理解度も70%台を保っている。</li> <li>● 「学習のルールを守る」や「教師の指導」に対してのスコアが下がっているため、ルール作りや教師の指導の再構築が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ICTのさらなる活用と教師の指導のマッチングを図る。</li> <li>● 教育課程において減少する「2単位分」の時間を、生徒の学習習慣の定着に反映させるような指導を工夫する。</li> </ul>
	学習の習慣と規律を確立するとともに、主体に学ぶ姿勢を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 学習のルールを守って授業に参加できている生徒が8割近くを占めている。</li> <li>● 課題への取り組み状況に問題があり、家庭学習のあり方等を工夫する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 家庭学習の取り組み方を指導する。</li> <li>● 学習以外の部分でも主体化を図っていく。</li> <li>● 課題の個別最適化を検討し、課題について主体的に取り組めるよう指導する。</li> </ul>
重点目標3 生徒指導	基本的な生活習慣の定着と規範意識・人権意識の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 携帯電話のマナーに関しては、昨年度より数値が低くなっているものもあるが、概ね守られており保護者の信頼も得られている。</li> <li>● タブレット端末が生徒全員に行き渡ったことで、休み時間等の利用について検討の余地がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 携帯電話だけでなくタブレット端末を含め、使用ルール(TPO)の問題や適切な使用法(例：SNSとの関わり方)の指導が求められている。</li> </ul>
	主体的、自律的な運営を柱として、部活動の活性化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 概ね主体的・自律的な部活動運営が行われている。</li> <li>● 生徒数減少により、活動が不十分な部活動が見え始めている。現在の部員の活動を保障しながら、部活の統廃合を加速させないといけない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 特定の部活動については今後の方針を説明し、現部員の活動を保障しながら休部／廃部につなげるようにしていく。</li> <li>● コロナ禍でも大会に参加できることに感謝し、そのために必要な活動を自律的に計画、実践できる部長・副部長を育成する。</li> </ul>

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
重点目標4 進路指導	3年間の進路指導計画に基づき個々の進路実現を支援する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 進路学習が整備されていると回答した保護者の割合が79.7%と満足度が高かった。</li> <li>● 進んで進路情報を収集したと回答した生徒の割合が64.6%と昨年度より若干上回ったが、目標の80%を大きく下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● コロナ禍によって、学校外での進路情報の収集は難しい状況であるが、校内でのガイダンスでの充実や、系統立てた進路学習を進めていきたい。</li> </ul>
	大学入試改革等に関する情報収集、情報発信、個別相談の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 生徒が主体的に進路活動に参加していると回答した教員の割合が73.1%と昨年度より約4%増加した。</li> <li>● 生徒に適切に進路指導や進路情報提供をしていると回答した教職員の割合が69.2%と昨年度より約19%減少した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 入試が変わってきていることや教員の多忙化もあり、生徒に進路情報を提供することは難しくなっているが、進路指導部より教員に積極的に情報提供することで、生徒に生かせるようにしていきたい。</li> </ul>
重点目標5 保健管理・教育相談	心身の健康を自分で管理できるように指導する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 新型コロナウイルス感染対策については、保健部による換気天窓の開閉の徹底により感染防止の意識を高めることができた。</li> <li>● 長期間に及ぶ感染対策が求められるため、生徒の意識のゆるみがみられた。</li> <li>● う歯の治療をした生徒の割合が51%で、昨年比に大幅に治療率が上昇した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 感染が治まらない状況が継続しており、引き続き感染対策への指導を継続するとともに、生徒の意識喚起を図るため、感染状況や季節に応じた指導方法について創意工夫を継続する。</li> <li>● う歯予防を含めた口腔内の健康について保健委員会活動を通して働きかける。</li> </ul>
	安全で安心して学べる環境を整備する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 美化委員会を中心に日頃の清掃活動ではきれいにならない箇所を美化週間に清掃してきれいにした。</li> <li>● 教職員による「清掃・美化・整頓等への適切な指導」のポイントが大幅に下がった理由として、年を追う毎に生徒が落ち着いて校舎内の美化整頓も充実してきて、指導が不必要になってきていることが原因と思われる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 美化委員会を中心に、生徒が自主的に清潔な環境を維持できるようにしていく。</li> </ul>
重点目標6 読書指導・情報管理	読書習慣を育成するとともに、安心・安全なICT環境を整える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● タブレットが導入され、生徒のICT環境は整い、授業等で使われた。</li> <li>● 生徒の読書離れに歯止めが掛かっていない。読書離れ、文字離れの危機感を生徒・保護者・教職員で共通理解する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 校内放送などの委員会活動、LHなどの特別活動を利用して、読書をする事の大切さを知ってもらう活動を地道に続ける。</li> <li>● 来年度は7限目の時間が減るので、放課後の図書館利用につなげることに取り組む。</li> </ul>
	情報発信を強化し、学校の姿勢・志向の全国的な認知を高める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● コロナ禍により、PTA活動は制限されたが、秋に親子ボランティアを行い、生徒・保護者・教職員で連帯感のある活動が一部行えた。</li> <li>● PTAから、コロナ後に向けて、PTA総会などの活性化できるような取り組みが必要との意見があった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 生徒減に向けて、学校の情報発信を強化し、学校の宣伝に努める。</li> <li>● PTA総会などを活性化するなど、コロナ後の活動の再開に合わせて、PTA活動の改善に取り組む。</li> </ul>

